

静岡県教育委員会

会議録

平成 24 年度 第 18 回定例
12 月 14 日（金）

静岡県教育委員会委員長 高橋尚子は、

平成 24 年 12 月 14 日に教育委員会第 18 回定例会を招集した。

- | | | | | |
|---|----------|----------------------|---------------|------|
| 1 | 開催日時 | 平成 24 年 12 月 14 日（金） | 開会 | 13 時 |
| | | | 閉会 | 14 時 |
| 2 | 会 場 | 教育委員会議室 | | |
| 3 | 出席者 | 委 員 長 | 高 橋 尚 子 | |
| | | 委員長職務代理者 | 加 藤 文 夫 | |
| | | 委 員 | 齊 藤 行 雄 | |
| | | 委 員（教育長） | 安 倍 徹 | |
| | 事務局（説明員） | 寺 田 好 弥 | 教育次長 | |
| | | 杉 本 寿 久 | 事務局参事兼教育総務課長 | |
| | | 田 中 潤 | 事務局参事兼学校教育課長 | |
| | | 鈴 木 啓 之 | 事務局参事兼学校人事課長 | |
| | | 吉 澤 勝 治 | 教育政策課長 | |
| | | 奈良間 一 博 | 情報化推進室長 | |
| | | 石 川 理 恵 子 | 人権教育推進室長 | |
| | | 原 田 揚 一 | 財務課長 | |
| | | 西 川 誠 | 福利課長 | |
| | | 輿 水 まゆみ | 小中学校教育室長 | |
| | | 岩 城 明 | 高校教育室長 | |
| | | 渡 邊 浩 喜 | 特別支援教育室長 | |
| | | 塩 崎 克 幸 | 高校再編整備室長 | |
| | | 活 洲 みな子 | 社会教育課長 | |
| | | 柳 田 恭 一 | 文化財保護課長 | |
| | | 松 田 好 道 | スポーツ振興課長 | |
| | | 中 村 孝 | 静岡教育事務所長 | |
| | | 橋 本 勝 | 静岡西教育事務所長 | |
| | | 谷 野 純 夫 | 中央図書館長 | |
| | | 三ッ谷 三 善 | 総合教育センター所長 | |
| | | 渡 邊 聡 | 学校人事課人事監兼課長補佐 | |

4 その他

(1) 報告事項 1 ～ 4 及び、1 月の主要行事予定は了承された。

【開 会】

委 員 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。
今回の会議録の署名は、加藤委員、斉藤委員に願います。

【非公開の決議】

委 員 長： 議案の審議に入る前に、本定例会の議案の取扱について諮る。
報告事項 2 は人事案件、報告事項 4 は調整中の案件であるため、非公開としたいと思うが、異議はないか。

全 委 員： 異議なし。

委 員 長： それでは、報告事項 2・4 を非公開とする。

報告事項 1 平成 23・24 年度の家庭教育実態調査の結果

委 員 長： 報告事項 1 頁「報告事項 1 平成 23・24 年度の家庭教育実態調査の結果」について、活洲社会教育課長より説明願う。

社会教育課長： <報告事項についての説明>

委 員 長： 質疑等はあるか。

斉 藤 委 員： 中学生の親の 7 割、小学生の親の 8 割が子育てに対する不安を持っている。幼児の親はもっと子育てに不安を抱えているのではないか。その世代の調査も必要である。浜松医科大学の寺尾前学長の最終講義を以前聴いたことがある。寺尾先生は名古屋大学付属病院の産婦人科の先生を長く務めていた。大学病院で難しいお産ばかり手がけていた寺尾先生の話では、難産でこの世に生を受けた子どもたちの中には、問題行動を起こすような子どもはいないと言っていた。難産で生まれた子どもたちの親は、あなたは私の宝物だと子どもたちに言い続けて育てている。それが子育てには大切なことだと寺尾先生は結論付けていた。したがって、家庭教育も幼児期が大切であり、幼児期の子どもを持つ家庭の実態調査をしなければならない。

加 藤 委 員： 小学校 3 年生で核家族 60 パーセントが、中学校 2 年生になると 52 パーセントになる。三世代家族の比率は変わらない。ひとり親の比率も中学校になると増えている。ただし、核家族とひとり親を足した数字は変わっていない。ひょっとすると、核家族の方が離婚しやすいのかもしれない。

社会教育課長： 離婚したかどうかは問えないので家族構成で聞いている。離婚しても三世代家族の中に入っていると外には現れてこない。したがって、核家族の比率が減って、ひとり親の比率が増えたのは、離婚したのかもしれないが、実際のところはわからない。

加 藤 委 員： 社会や家族の問題が子どもの問題に凝縮されている。社会や家族がいくつかがあるべき姿に収れんしていかないと子どもたちは不幸になる。離婚しても幸せな子どもはいるかもしれない。それならば、その理由を考えることで行政の支援の形も見えてくる。親が離婚しても子どもが不幸にならない施策を考えるべきである。

- 齊藤委員： 基本的に生活習慣とは何か。
- 社会教育課長： 自分が生きていく上での基本的な生活習慣である。
- 齊藤委員： 設問の意味が分かりづらいのではないかと。学校側から見て、基本的な生活習慣ができていないと考えているから、それを高めようとしているのか。
- 社会教育課長： 家庭教育の検討会で委員から基本的な生活習慣に関する親の意識を尋ねたいという意見が出て設問に加えた。
- 齊藤委員： おはようとかおやすみは挨拶か、基本的な生活習慣か。
- 社会教育課長： 曖昧である。
- 齊藤委員： 子どもの人数で1番多いのが2人、その次は3人である。平均すると世の中で言われている平均より多い。たまたま、調査した家庭では子どもが多かったのか。
- 社会教育課長： 偶然だが、小学校と中学校で同じ傾向で答えていただいた。
- 齊藤委員： 1人っ子と2人っ子では家庭教育が違う。ふたりいると親だけでなく兄や姉が弟や妹の面倒を見てくれる。世の中では1人っ子が多いので、このデータとのズレがあるように思う。
- 教育次長： 子どもがいる家庭に調査をしているので平均値は高い。全国的な子どもの数は、子どもがいない家庭等も含めているから低くなる。
- 加藤委員： 小学校3年生までは親が全てである。親の目を通して社会を見ている。中学2年生は反抗期の真っ盛りで親には挨拶しなくても他人には挨拶する。子どもの発達段階による差が意識できるような調査が必要。
- 委員長： 調査の結果、講演会等よりも身近な人に相談したい傾向が強い。行政として講演会を開催するよりも、小さな単位で相談にのってあげられるような支援が必要なのだと思う。また、父親は子育ての悩みを相談しづらい。父親1人で子育てをしている家庭もあるので、父親が相談しやすい場所を見つけてあげることも大事である。
- 委員長： その他、質疑等はあるか。
- 全委員： （特になし）
- 委員長： 報告事項1を了承した。

報告事項3 平成25年度静岡県公立併設型高等学校入学者選抜の定員

- 委員長： 追加報告事項1頁「報告事項3 平成25年度静岡県公立併設型高等学校入学者選抜の定員」について、塩崎高校再編整備室長より説明願う。
- 高校再編整備室長： <報告事項についての説明>
- 委員長： 質疑等はあるか。
- 加藤委員： 中高一貫校と言いながら中学だけ籍をおいて、高校は外へ出てしまう生徒の数が、沼津市立が一番多い。これはどういうことなのか。
- 高校再編整備室長： 浜松西高校と清水南高校で外に出る生徒は一家転住などの理由がある。沼津市立にもそのような事情もあるが、他校へ進学する生徒もいる。沼津市教委とも相談していきたい。

委員 長： その他、質疑等はあるか。
全委員 員： （特になし）
委員 長： 報告事項 3 を了承した。

平成 25 年 1 月の主要行事予定

委員 長： 議案書 2 頁「平成 25 年 1 月の主要行事予定」について、杉本教育総務課長より説明願う。

教育総務課長： < 報告事項についての説明 >

委員 長： 質疑等はあるか。

全委員 員： （特になし）

委員 長： 平成 25 年 1 月の主要行事予定を了承した。

【会議の非公開】

委員 長： ここで会議を非公開とする。

< 非 > 報告事項 4 重大な生徒指導事案報告

< 非 > 報告事項 2 船員採用第 2 次選考試験の結果

【閉会】

委員 長： 以上で、本定例会の議事はすべて終了した。
これをもって、平成 24 年度第 18 回教育委員会定例会を閉会とする。